

未成年を含む家族による CPR により良好な転帰を得た心肺停止の一例

清水 木綿、 八木 良樹、 頭司 良介、 後藤 拓也、 筈井 寛、
橘高 弘忠、 西本 昌義、 杉江 亮、 福田真樹子、 大塚 尚、
岡本 雅雄、 小畑 仁司、 大石 泰男、 秋本 寛
(大阪府三島救命救急センター)

【症例】：

44 歳女性。

【現病歴】：

患者が自宅で突然に虚脱したところを患者の次男（11 歳）が発見し、ただちに長男（14 歳）と夫により胸骨圧迫、救急要請が行われた。虚脱より 5 分後に救急隊が到着し、初期調律は心室細動であった。電氣的除細動を計 5 回施行するも心拍再開はなく、当センター搬入後ただちに低体温療法及び経皮的な心肺補助装置（PCPS）が導入された（虚脱より循環再開まで 52 分が経過していた）。心室細動の原因は急性心筋梗塞であり冠動脈形成術が行われた。第 4 病日には PCPS を、第 7 病日には人工呼吸器をそれぞれ離脱した。その後意識レベルは徐々に改善し、第 17 病日には JCS-1 まで回復した。第 35 病日にリハビリテーション継続目的に転院となった。

【考察】：

虚脱から PCPS 導入まで長時間が経過していたにもかかわらず救命することができ、社会復帰も可能となった症例を経験した。その要因として虚脱後ただちに家族により施行された心肺蘇生（CPR）が功を奏したと考えられる。本症例の患者の居住する地域では地元消防本部が中学生を対象に救命講習を実施しており、長男は数日前に講習を受講していた。現在本邦において、未成年に対する CPR 教育は確立されていない。未成年者への CPR 教育の現状と同地域の試みについて報告する。
